



54

Jul. 2018

- ② 特集 通常総会開催される
- ⑦ 特別寄稿 株式会社三菱地所設計 代表取締役社長 林 総一郎氏  
「歌舞伎座の巨大防火シャッター」
- ⑧ シリーズ 東京大学 生産技術研究所 教授 腰原 幹雄氏  
第3回「これからの建築業界で生き残るには」
- ⑨ ズームアップ 「防火・避難規定について知ろう」
- ⑩ 第1回 働き方改革は日本経済に何をもたらすのか
- ⑫ 新会員企業紹介コーナー
- ⑬ 第4回 会員企業紹介コーナー
- ⑭ 第4回 委員会紹介コーナー
- ⑯ スポットライト シャッターの使用状況調査 2017

JSDA

一般社団法人 日本シャッター・ドア協会

## 通常総会開催される

さる5月22日(火)午後、東京都千代田区のグランドアーク半蔵門において、日本シャッター・ドア協会の平成30年度通常総会、定例理事会が開催された。続いて、協会表彰・記者会見が行われた後、夕刻より懇親会が開催された。



### 平成30年度 通常総会 / 定例理事会

15時より、グランドアーク半蔵門において、第一種会員および監事出席のもと「平成30年度通常総会」が開催された。通常総会では、潮崎副会長が議長を務め、報告事項として平成29年度事業報告が承認された後、決議事項として第1号議案「平成29年度決算承認の件」、第2号議案「役員(理事・監事)選任の件」、第3号議案「新会費(案)承認の件」が諮られ、それぞれ原案の通り承認された。

次にその他報告事項に移り、平成30年度事業計画及び平成30年度収支予算、防火設備の検査報告制度、技能検定制度、浸水防止用設備JIS化、平成30年度協会表彰、会員の状況等について報告された。

総会后、同会場において平成30年度協会表彰に移り、優秀工事従業者表彰7名、協会委員表彰2名が行われた(3ページに掲載)。



17時より、日刊紙、専門紙約15社の記者を集めて定例記者会見を開催した。会見には長野会長、潮崎副会長、亀村専務理事、後藤常任理事が出席し、冒頭、長野会長より就任挨拶と新役員の紹介が行われた。

続いて、工場、物流施設向の好調により、平成29年度の重量シャッター、軽量シャッター生産量ともに前年より増加したことを挙げた。

また、今年度は首都圏を中心にオリンピック関連施設、インバウンド増大による宿泊施設等の建設需要により、需要は引き続き増大を続けていくと言及した。続いて、亀村専務理事より平成30年度事業計画について説明が行われ、質疑応答を経て会見を終了した。

## 平成30年度 懇親会が開催される

18時からは、多くの来賓と会員ら約200名が出席して、懇親会が開催された。田中事務局長の司会により開会され、新しく会長に就任した長野会長より、ご出席頂いた方々への御礼と会長就任の挨拶、新任役員の紹介の他、業界の動向について報告が行われた。続いて、政務多忙のなか駆けつけて頂いた太田昭宏・元国土交通大臣、田中和徳・衆議院議員、平将明・衆議院議員、秋本真利・国土交通大臣政務官をはじめ、ご来賓の方々よりご挨拶を頂いた後、潮崎副会長の乾杯の発声で歓談に移った。会の途中では平成30年度優秀工事従業者および協会委員表彰者が紹介された。歓談中は終始和やかな雰囲気の中、小松副会長による中締め挨拶により、懇親会はお開きとなった。



挨拶する長野新会長



## 平成30年度 協会表彰

本年度は、優秀工事従業者協会表彰として7名、協会委員表彰は2名が表彰された。

### ■優秀工事従業者協会表彰

- 渡辺 徹氏 (推薦: 三和シャッター工業(株))
- 広瀬 修氏 広瀬鋼建  
(推薦: 文化シャッター(株))
- 久木田 亨氏 まると鋼建  
(推薦: 東洋シャッター(株))
- 高野 秀伸氏 秀栄工業  
(推薦: (株)LIXIL 鈴木シャッター)
- 武田 武氏 (株)マハ口  
(推薦: (株)LIXIL 鈴木シャッター)
- 糸井 宏氏 (有)糸井工業  
(推薦: 日本フネン(株))
- 木村 学氏 (株)横引SR  
(推薦: (株)横引SR)



渡辺 徹氏



広瀬 修氏



久木田 亨氏



高野 秀伸氏



武田 武氏



糸井 宏氏



木村 学氏

### ■協会委員表彰

- 河西 文華氏 メンテナンス委員会  
文化シャッター(株)
- 益岡 徹治氏 工事委員会  
(株)LIXIL 鈴木シャッター



河西 文華氏



益岡 徹治氏

# 平成 30 年度 事業計画

## はじめに

シャッター及びドアは、建築物において防犯等の管理機能や防火・遮煙等の防災機能といった重要な役割を担っている。

当協会は昭和 39 年に社団法人日本シャッター工業会として設立され、平成 12 年には社団法人日本シャッター・ドア協会として新たにスタートし、今日までシャッター及びドアの性能向上や普及を通じて、より安全で安心できる社会の形成に貢献するよう努めてきた。

当協会会員が供給してきたシャッター及びドアのストックは既に膨大なものとなっており、新たな供給への対応と併せて、ストック対策が極めて重要となっている。

シャッター及びドアは、的確な保守・点検により期待された機能が確保されるものであり、保守・点検が必須である。このため、当協会では、平成 18 年度に点検法制化推進本部を設け、以来、シャッター及びドアの点検制度について検討・提案を行ってきた。

平成 28 年 6 月より改正建築基準法が施行され、防火設備に関する検査制度が開始された。

当協会としては、この制度が的確かつ円滑に実施されるよう、会員及び関係者の協力を求めていく。

防火設備の検査資格者の講習制度の一環として位置づけられた実技講習については当協会が（一財）日本建築防災協会より委託を受けて、昨年度は、平成 30 年 1 月より実施した。本年度も引き続き実施していく。

シャッター・ドアの施工者の技能の向上を図る観点から、シャッター・ドアの施工者を対象に、国家資格である技能検定制度の導入に向けた取り組みを進め、シャッター・ドア業界の地位の向上を図る。また、シャッター施工技能者資格認定試験を実施する。

近年、異常気象によるゲリラ豪雨が増加しているが、協会では、防災事業の一環として浸水防止用設備の普及が重要であると認識し、協会の事業として検討を進めてきた。今年度は、浸水防止用設備の JIS 原案作成に取り組んでいくこととする。

当協会の会員を取り巻く状況については、政府による経済対策や日銀の金融緩和策等により景気は緩やかに拡大し、海外経済も緩やかな成長を続けていくと予測されている中、業績はおおむね堅調に推移していると思われる。

このような社会経済情勢の下、本年度も、会員相互の協力により設立の目的に掲げる各種の事業を推進するとともに、法令遵守に対する意識を高め、より一層社会に貢献したいと考えている。

## 第一章 定常的事業

### 1 調査研究普及事業

シャッター、ドア及び防火設備に関する調査研究、技術基準等の策定、製品安全への取り組み、維持管理における安全対策の推進等を行う。

#### (1) 調査研究

- ・シャッター及びドアの耐環境性に関する研究を行う。

#### (2) 技術基準等の策定

- ・技術基準の策定、改定を進める。

##### 技術基準の策定

軽量シャッター技術基準、鋼製ドア技術基準及び浸水防止用設備技術基準の改定

##### 技術基準の改定

重量シャッター技術基準、耐火クロススクリーン技術基準、高速シートシャッター技術基準、グリルシャッター技術基準、オーバーヘッドドア技術基準及び窓シャッター技術基準

- ・技術基準の構成要素である施工基準及び点検基準の策定、改定を進める。
- ・技術基準等の策定に関する調整を行う。各技術委員会の情報の共有化を図るとともに、技術基準等の標準化について検討する。

#### (3) 製品安全への取り組み

- ・事故情報の分析及びそれを踏まえた基準作りを行う。
- ・安全対策検討委員会を開催し、シャッター・ドアの安全対策について検討を行う。
- ・製品安全に関するガイドラインの策定等を行う。

高頻度シャッターの設置及び維持管理に関するガイドラインの策定

高速シートシャッターの安全に関するガイドラインの策定

シャッター・オーバーヘッドドア用リモコンスイッチの誤操作等による事故防止に関するガイドラインの策定

- ・耐火クロススクリーンの設置に関する自主管理を行う。
- ・協会のホームページを活用して安全普及を推進する。
- ・シャッター施工に関する技能検定制度の導入に取り組む。

#### (4) 維持管理における安全対策の推進

- ・製品安全普及事業の一環として、建物管理者やユーザー向けの各種ツールを作成し、定期的な保守点検の必要性を訴え、点検が幅広く推進されるよう活動する。
- ・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定制

度を推進する。

- ・危害防止機構や障害物感知装置が未設置のシャッターの解消を図るための取り組みを進める。

#### (5) 資料収集・普及事業

- ・シャッター・ドアの市場及び用途に関する調査を行う。
- ・労働災害発生状況の調査を行う。
- ・防犯製品に関する情報提供を行う。
- ・浸水防止用設備の普及促進に係る取り組みを進める。
- ・会報・ホームページによる情報提供に努める。
- ・優秀工事従業者表彰を実施するとともに、優秀施工者の国土交通大臣顕彰及び土地・建設産業局長顕彰に関し推薦を行う。
- ・社会保険未加入対策を進める。
- ・ドア事業の推進に関し、新たな展開を図るための検討を進める。
- ・スチールドアに関する研修会を行う。

## 2 評定登録講習事業

所定の性能を有するシャッター及びドアに関する認定、登録、並びにシャッター、ドア及び防火設備の施工及び点検に関する人材育成を行う。

### (1) 所定の性能を有するシャッター及びドアの認定、登録等

- ・遮炎遮煙性能に関し国の認定を受けた構造方法（CAS）の使用承認を行う。
- ・連動機構・装置等の自主評定を（一社）日本火災報知機工業会及び日本防排煙工業会と共同で行う。
- ・防犯性能の高い建物部品の自主評定を警察庁等で組織する官民合同会議に参画して行う。

### (2) シャッター及びドアの点検等に関する人材育成

- ・シャッター及びドアの保守点検を行う技術者育成のための講習会を開催し、保守点検を行う技術者の認定及び登録を行う。

### (3) 防火設備検査員講習における実技講習の実施

- ・（一財）日本建築防災協会より委託を受け、防火設備検査員講習における実技講習を実施する。

## 第二章 特別事業

### 1 シャッター及びドアのストック対策の推進

平成 28 年 6 月の改正建築基準法の施行により、防火設備であるシャッター・ドアに関する検査が義務化された。当協会としては、この制度が的確かつ円滑に実施されるよう引き続き会員及び関係者の協力を求めている。

検査の実施に関しては、機動的に対応できる体制を協会内に整える。

防火設備の検査資格者については、講習制度の一環である実技講習を当協会が（一財）日本建築防災協会から委託を受け、昨年度は、平成 30 年 1 月から 2 月まで実施した。当協会では本年度も引き続き実技講習を実施する。

製品安全普及事業については、建物管理者やユーザー向けの各種ツールを作成し、定期的な保守点検の必要性を訴え、点検が幅広く推進されるよう活動を行う。

また、適切な維持管理の推進とあわせて、危害防止機構や障害物感知装置未設置のシャッターの解消に積極的に取り組むものとする。

さらに、6 月 1 日を点検の日、9 月 1 日を安全の日と定め、会員に配布した協作成のチラシ・ポスターを活用して、会員が建物管理者やユーザー向けに定期的な保守点検の必要性を訴え、点検が幅広く推進されるよう活動するとともに、安全の確保を訴え、ユーザー等の安全性の向上を図られるよう活動する。これにより、協会の知名度、ブランド力の向上を図る。

### 2 技能検定制度導入への取り組み

シャッター・ドアの施工者の技能の向上を図る観点から、シャッター・ドアの施工者を対象に、国家資格である技能検定制度の導入に向けた取り組みを進め、シャッター・ドア業界の地位の向上を図る。

このため、技能検定制度における職種の追加、及び当協会が指定試験機関となる上で必要となる事項等について検討し、その結果を踏まえて関係機関との調整を行う。また、シャッター施工技能者資格認定試験を実施する。

### 3 浸水防止用設備に関する取り組みの推進

近年、増加している異常気象によるゲリラ豪雨に対応し、防災事業の一環として浸水防止用設備の普及が重要である。今年度は、浸水防止用設備 JIS 化へ向けて、JIS 原案作成本委員会を運営し、浸水防止用設備の JIS 原案を作成する。

### 4 会員サービスの取り組み

全国の会員を訪問し、会員からの要望を聞き取る。

協会会報に会員企業紹介コーナーを設け、その中で協会に期待することを掲載する。これらの要望に対し、協会としての会員サービスの取り組みを検討していくこととする。

ドア関係の会員企業の研修会の要望があることから、年 1 回実施する。

第一章及び第二章の事業を推進するため、協会活動の基盤である会員の拡充を図るとともに、必要に応じ学識者、関連行政担当者、関係団体役職員の参加を求めて会員の協力による委員会を組織する。

また、各事業の進行管理及び日常の活動のために必要な事務局の体制を整備するとともに、その効率的な運用に努めるものとする。

## JSDA 会報 各委員会活動報告

委員会名	4～6月活動内容（計画の進捗などについて）	主な活動計画テーマ
業務委員会 (小森谷 聖二 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>パンフレット「JSDA 版メンテナンスガイド」の作成継続中・シャッター等の出荷量と使用用途調査を実施し、まとめ中。</li> <li>前年度の元下請け契約の調査のまとめを実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シャッター・ドアの定期点検の普及及び点検法制化実施への対応</li> <li>シャッター・OSD 及びシャッター関連製品の市場及び用途の調査</li> <li>元下請関係の契約適正化</li> <li>関係省庁からの依頼対応</li> </ul>
総務委員会 (犬飼 民夫 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>昇給、賞与に関する情報交換、勉強会</li> <li>法改正に関する情報交換、勉強会</li> <li>労働条件に関する情報交換、勉強会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法律の施行・改定内容に関する勉強会の実施</li> <li>労働条件等に関する勉強会の実施</li> <li>会報コーナー「総務委員会だより」の作成</li> </ul>
工事委員会 (岡本 光永 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各社の工事を対象とする「平成 29 年度工事業労働災害発生状況調査」の実施し、まとめ中。</li> <li>高速シートシャッターの施工基準に電気施工基準を入れるべきか管理調整委員会と調整中。</li> <li>鋼製建具（引き戸・シャッター抽扉）の施工基準の制定を完了し、ドア技術委員会に審議を依頼中。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働災害発生状況の調査</li> <li>高速シートシャッターの施工基準及び電気施工基準の改訂</li> <li>鋼製建具（引き戸）の施工基準の策定</li> </ul>
講習委員会 (益岡 哲治 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定講習会、東京会場：149 回（5/24）、大阪会場：第 150（5/30）、沖縄会場 151 回（5/17）を開催した。</li> <li>資格認定委員会の可否を判定する認定委員会を開催した（6/6 日）。</li> <li>防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格更新講習会、福岡会場（9/7）、東京会場（5/13）、名古屋（9/21）、10/2（大阪）を開催予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防火シャッター・ドア保守点検専門技術者新規資格認定講習会の開催</li> <li>防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格更新講習会の開催</li> <li>各種資格認定委員会の可否を判定する認定委員会の開催</li> </ul>
品質・安全委員会 (築山 清一 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各月の事故情報の分析と提言を実施した。</li> <li>協会ホームページの事故事例を見直し、安全装置の名称の追加した。</li> <li>第 21 回シャッター・ドア等安全対策検討委員会（河野委員長）を開催し、事故の発生状況や推移、再発防止への各委員会への取り組みなどの報告を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事故情報の確認と分析</li> <li>安全対策検討委員会の開催</li> <li>一般ユーザーに向けた安全普及活動の推進</li> </ul>
メンテナンス委員会 (砂留 誠 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>高頻度シャッター・軽量シャッター、オーバードア、グリルシャッターの点検基準の改定、策定を実施中。</li> <li>鋼製建具（開き戸・引き戸）点検基準は策定完了。高速シートシャッター点検基準は、技術委員会にて審議依頼中。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鋼製建具（開き戸・引き戸）、グリルシャッター、軽量シャッター、OHD、高速シートシャッターの点検基準の策定</li> </ul>
運動機構・装置等自主 評定専門委員会 (大館 一樹 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主評定「型式更新」4 件、「型式承認」1 件、「軽補正」1 件の審査をおこない、本委員会へ申請した。</li> <li>自主評定に関する規定、マニュアル等を見直しに着手した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動機構・装置等の確認等申請審査</li> <li>運動機構・装置等自主評定委員会への申請</li> <li>煙・熱感知運動機構・装置等の設置及び維持に関する運用指針の改訂</li> </ul>
企画広報委員会 (新子 雅之 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>2018 年新春号会報の発行（ページ企画、取材、編集）</li> <li>2018 年初夏号会報発行のための作業中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会報の発行</li> <li>ホームページの充実</li> <li>メディア広報の実施</li> <li>会員メリットの訴求</li> </ul>
浸水防止用設備委員会 (山本 誠一 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>JIS 化に向けて、本委員会・分科会実施</li> <li>審議による JIS 原案修正など活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>浸水防止用設備技術基準の策定</li> <li>関連法規の検討</li> <li>関係機関との意見交換</li> <li>浸水防止用設備 JIS 規格化</li> <li>用語集の見直し</li> </ul>
シャッター技術委員会 (福西 耕二 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>重量シャッター技術標準改訂は、電気関係施工基準作成中。</li> <li>関係省庁への協力及び、事故を未然に防ぐをテーマに活動中</li> <li>木造耐火構造対応について関係委員会とセミナー参加</li> <li>防犯更新申請審査 2 件実施</li> <li>公共建築工事標準仕様書 31 年版改定提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重量シャッターの技術標準の改訂</li> <li>軽量シャッター、グリルシャッターの技術標準の策定</li> <li>ガイドレールの強度計算基準の見直し</li> <li>事故事例からの対策</li> <li>用語集の見直し</li> </ul>
オーバードア 技術委員会 (茨木 伸也 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全に関するガイドラインの改訂が完了した。今後協会のホームページで公開する予定。</li> <li>設計耐用年数や設計耐用回数を越えた製品事故の、内容確認を行った。</li> <li>防犯の更新申請が 3 件あり、審査を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「オーバードア技術標準」の見直し</li> <li>事故再発防止策の検討</li> <li>安全装置基準の検討</li> <li>オーバードアの負担強度について</li> </ul>
ドア技術委員会 (諸留 充 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>鋼製建具、鋼製軽量建具の技術標準は、点検基準作成中。</li> <li>耐環境性に関する研究、JPMS28 注意喚起など他協会と活動中</li> <li>木造耐火構造対応について関係委員会とセミナー参加</li> <li>防犯性能の高い建物部品（ドア B 種）の 1 件受付、審査手配中</li> <li>公共建築工事標準仕様書 31 年版改定提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鋼製建具、鋼製軽量建具の技術標準作成</li> <li>鋼製引き戸、鋼製軽量引き戸の技術標準作成</li> <li>耐環境性に関する研究</li> <li>防犯性能の高い建物部品（ドア B 種）審査</li> <li>用語集の見直し</li> </ul>
耐火クロススクリーン 専門委員会 (大場 広敦 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術標準改定案の最終チェックを実施し、説明用の新旧比較表を作成した。</li> <li>木造建築物納まりに関してボードメーカーを訪問し、設計のポイントなどの確認を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術標準の改定</li> <li>自主管理の実施</li> <li>木造建築物納まりの検討</li> </ul>
高速シートシャッター 専門委員会 (吉竹 直行 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>点検基準（案）が完了した。</li> <li>特定調達品の申請について内容確認を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高速シートシャッターの安全に関するガイドラインの見直し</li> <li>技術標準の改訂</li> <li>特定調達品目の申請</li> </ul>
窓シャッター専門委員会 (野口 弘幸 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>窓シャッターの施工基準（案）が完成し、工事委員会へ移管した。</li> <li>防犯の更新申請が 3 件あり、審査を行った。</li> <li>サッシ協会との窓シャッター自主管理合同委員会を開催し「飛来物の耐衝撃性能」に関する意見交換を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>窓シャッター技術標準の作成</li> <li>防犯申請対応</li> <li>窓シャッター性能の検討</li> </ul>

## 「歌舞伎座の 巨大防火シャッター」

株式会社三菱地所設計

代表取締役社長 林 総一郎氏



建物に必須であるものの、将来にわたって「できれば使われて欲しくない」「日常的には目立たせたくない」ものの1つに防火設備がある。以前、当社が歌舞伎座建て替えの設計で扱った防火シャッターもその1つ。意匠設計の担当者に聞いた話を紹介したい。

歌舞伎座の建て替えでは、間口十五間一尺（約 27.5 m）、高さ三間三尺（約 6.3 m）のプロセニウム開口をどのように塞ぐのか、舞台と客席の間の防火区画をどのように形成するのか議論となった。もちろん性能評価で区画の緩和を受けるという手法も考えられるが、毎月演目が変わる中で、性能評価の前提条件を確定できるのか疑問が払拭できなかったという。基本路線は“元の歌舞伎座に倣う”という方針となり、遡ってみると、大正 13 年竣工の第三期歌舞伎座の設計概要には「プロセニウムは電気仕掛けの防火扉によって仕切られる」という記載が残っており、さらに昭和 26 年竣工の第四期歌舞伎座

は、戦後間もない物資が乏しい時代であったにも関わらず、巨大な垂直降下式鋼製パネルシャッターが装備されていたのである。解体直前には所轄消防署の担当官がわざわざ見学に来たほど珍しかったらしい。そして第五期歌舞伎座。最終的に緞帳や定式幕で混み合ったプロセニウム廻りについては第四期と同様の納まりでないと成立しないことが明らかとなり、第五期歌舞伎座においても再び巨大垂直降下式鋼製パネルシャッターが採用されることになった。

工事機械が進歩した現在であっても大変な工事であったと聞いたが、ましてや第四期にあっては昭和 20 年の終戦から間もない時期である。数年前まで日本中が焼け野原になっていた状況で、安全性に妥協せず第四期歌舞伎座を復興した設計・工事の関係者の努力に敬意を表したい。

## NEWS

### 第 1 回 鋼製ドア研修会を開催

7月3日（火）大阪メルパルクにて第1回鋼製ドア研修会を開催しました。これは JSDA 事務局とドア技術委員会が開催したもので、SD 製造販売会員様に出席いただき、JSDA ドア関連委員会の活動、鋼製建具・鋼製軽量建具の技術標準などドアに関する情報交換を実施しました。研修会後には懇親会を行い、会員各社間及び協会間の交流を深めました。JSDA では会員各社様のご意向を反映し、相互通行できるようなドア技術委員会への変革に努めてまいります。



# これからの建築業界で 生き残るには -木造建築業界から見て3-

東京大学 生産技術研究所  
教授 腰原 幹雄氏



これから普及が期待される新しい木造建築「都市木造」では、どのようなことを共有していく必要があるだろうか。

都市部に建つ建築では、土地の価格を考えると高密度にする必要があり、大規模で多層の建築が求められるようになる。日本でこれまで建築されてきた大規模木造建築は、大きいといっても大屋根の建築が中心であった。東大寺大仏殿は大きいといっても平屋であり、法隆寺五重塔も人が入るには初層のみで上層は小屋組である。金閣や銀閣といった楼阁建築、姫路城、松江城などの天守など限られた建物で技術も限定されている。そもそも、建築はその時代の生活スタイルや社会システムに応じて変化してきたものであり、現代都市に建つ多層の木造建築である「都市木造」は、日本の長い木造建築の歴史の中でも初めてのものと考えてもよい。そういった意味では、都市型の建築である鉄筋コンクリート造や鉄骨造のビルの方が、参考になることは多いかもしれない。

まず、多層の建築では、屋根よりも床と壁（外壁、内壁）の技術が重要になる。床といっても、床仕上げ表面のことをいっているのではなく、下階の天井から当該階の床表面までを含む、天井仕上げ、天井内配管、床スラブ、床上配管、床仕上げで構成された層のことである。この床では、構造性能だけでなく防耐火性能、居住性（遮音性能、振動障害、意匠性）としてさまざまな性能が要求される。これらを解決するには、各部を構成する1部材で解決することはできずさまざまな材料、層の組み合わせで解決しなければならない。ところが、天井によく用いられる石膏ボード関係は石膏ボード工業会、木質の床スラブは日本集成材工業協同組合、全国LVL協会、日本合板工業組合連合会、日本CLT協会など木質材料毎に、OAフロアなどの二重床は日本乾式二重床工業会、床下地は日本複合・防音床材工業会、床仕上げはフローリング協会と、層単位ごとに業界が構成され団体に分かれている。床構法全体の性能を議論する場が求められる。

壁も、外壁、内壁で要求性能が異なるが、同様な状況である。環境調整機能として断熱性、調湿性、遮音性、保温

性、遮熱性、自己消火性、耐久性、耐火性、耐風、耐震とさまざまな要求に対して、戸建木造住宅ではさまざまな層を重ねた多層構成にすることによって解決してきた。そのため、壁の厚さが足し算として厚くなってきてしまった。

効率的な床、壁を構成するためには、構法として床、壁の構成を議論していく必要がある。

また、建築が大規模になると防耐火の安全性から平面的、立面的に建物を小さい単位に区画して火災時に火災が急激に燃え広がることを防ぐ必要がある。鉄筋コンクリート造や鉄骨造の建物でも防火区画の配慮がされてきたが木造建築では、特に重要な対策である。2000年の建築基準法の改正によって木造建築でも、耐火建築が実現可能になったが、この耐火建築物は、これまでの概念と異なる耐火建築物が生まれたことに注意が必要である。変形が大きく、燃える材料である木材を構造体を使用しているという点である。これまでのシャッター、ドアなどの防火設備は、剛性がしっかりした、燃えない部材に取り付けることを前提に考えられてきた。というよりは、周辺の部材に対してはあまり気にかけてこなかったのが正直なところだろう。木質系耐火建築の火災時の挙動を想像してイメージを共有していかなければならない。部材開発では、建築設計者だけでなく構造設計者（特に木造の）、防耐火設計者などこれまで付き合いの薄い人たちとのネットワークづくりが必要である。

さらに、森林資源の有効活用から木造建築の適用範囲を増やすための規制緩和がすすめられている。1951年の住宅局建築防災課長通達「部分により構造を異にする建築物の棟の解釈について」（昭和26年3月6日住防発第14号）が、技術的助言として現在も有効であることがあらためて提示されている。別棟の解釈では、特定防火設備を備えた耐火構造の部分で分けることにより分けられた部分毎に構造制限に従えばよいことになる。ここでも、解釈の主旨を正しく理解して、なんでも別棟として扱えるということではなく火災時に何か起きるのか、分棟間での延焼が本当に防止できるのかを考えて設計する必要がある。

一方、魅力的な大規模木造建築を実現するためには、こうした技術的な要求条件だけでなく木造空間の魅力、大規模建築の魅力も考えていかなければならない。区画としての防耐火性能を満足しようとするれば、当然、燃えない材料で閉鎖的な空間をつかって分断していくことが簡単であるが、一方で開放的に連続的に広がる木造空間も提示したい。一見、相反する条件ではあるが、透明な区画材料、シートシャッターなどの軽快な設備など、シャッターやドアの専門家の技術と建築設計者の希望を両立する設備の実現を期待したい。都市木造という新たな建築を魅力的で安全な建物とする技術開発において業界を横断したチームの誕生に期待したい。

# 防火・避難規定について知ろう!

2016年6月に改正建築基準法が施行され、スタートから3年目を迎えた「防火設備の検査報告制度」。皆さんは建築防火についてどのくらいご存知ですか？最終回では「防火・避難規定の強化および合理化に係る経緯（※）」について解説します。

※国土交通省住宅局において作成された資料「建築基準法制度概要集」より引用

## 第3回 防火・避難規定の強化および合理化について

### 防火・避難規定の強化に係る経緯

○ 木造建築物に係る防火規制は戦前からも行われており、1950（昭和25）年に制定された建築基準法では、大規模木造建築物の**火災による多数の犠牲者や市街地火災の経験を踏まえ規制を強化**している。

【災害の発生等に応じた改正】

<b>大規模な火災多発</b>	<b>1959（昭和34）年 建築基準法改正</b>	→	<b>1959（昭和34）年 建築基準法改正</b>	○ 内装制限の創設 ○ 簡易耐火建築物の創設	→	<b>1961（昭和36）年 建築基準法施行令改正</b>	○ 内装制限の強化	→	<b>1969（昭和44）年 建築基準法施行令改正</b>	○ 区画貫通部の措置 ○ 壁穴区画の創設 ○ 内装制限の強化	→	<b>1970（昭和45）年 建築基準法改正</b>	○ 非常用の昇降機の設置 ○ 排煙設備の設置 ○ 非常用照明装置の設置 ○ 非常用進入口の設置	→	<b>1973（昭和48）年 建築基準法施行令改正</b>	○ 常時閉鎖式防火戸の規定 ○ 防火ダンパーの基準整備 ○ 2以上の直通階段の適用拡大 ○ 内装制限の強化	→	<b>1976（昭和51）年 建築基準法の一部改正</b>	○ 検査済証交付前の使用制限等	
1956（昭和31）年 神田共立講堂火災（東京都千代田区） 1957（昭和32）年 明治座火災（東京都中央区） 1958（昭和33）年 東京宝塚劇場火災（東京都千代田区、死者3名）	○ 区画貫通部の措置 ○ 壁穴区画の創設 ○ 内装制限の強化																			○ 非常用の昇降機の設置 ○ 排煙設備の設置 ○ 非常用照明装置の設置 ○ 非常用進入口の設置
<b>バー、キャバレー等の火災の増加</b>																				
<b>耐火建築物の火災多発（酸欠、ガス中毒多し）</b>																				
1966（昭和41）年 川崎市金井ビル火災（神奈川県川崎市、死者12名） 1968（昭和43）年 有楽サウナ火災（東京都千代田区、死者3名） 国際劇場火災（東京都台東区、死者3名）																				
<b>旅館、ホテル火災多発</b>																				
1966（昭和41）年 菊富士ホテル火災（群馬県水上温泉、死者30名） 1968（昭和43）年 池ノ坊満月城火災（兵庫県神戸市、死者30名） 1969（昭和44）年 磐光ホテル火災（福島県常磐熱海温泉、死者30名）																				
<b>史上最大のビル火災</b>																				
1972（昭和47）年 千日デパート火災（大阪府大阪市、死者118名）																				
<b>増築等の工事中の火災多発</b>																				
1973（昭和48）年 西武高槻ショッピングセンター火災（大阪府高槻市、死者6名） 大洋デパート火災（熊本県熊本市、死者100名）																				



酒田大火（1976（昭和51）年）



阪神・淡路大震災（1995（平成7）年）

### 防火・避難規定の合理化に係る経緯

○ 建築材料・部材の試験結果や、実大火災実験により得られた科学的知見等に基づき、技術的に**避難安全の確保や周囲への危険防止等が確認できたもの**について、順次、合理化を図っている。

**1992（平成4）年改正（法律）**

- ・木造であっても、防火被覆などによって耐火構造に準ずる性能を実現できることが技術的に検証できたことを踏まえて、「**火災による延焼を抑制する性能**」を有するものを「**準耐火構造**」として新たに定義し、**木材の利用可能性を拡大**。
- ・1991（平成3）年12月の実大火災実験等の知見に基づき、**防火地域・準防火地域外で1時間準耐火構造の木造3階建て共同住宅**を可能とした。

↓

**1998（平成10）年改正（法律）**

- ・更なる性能規定化により、**木造による耐火構造の実現**を可能とした。
- ・1996（平成8）年3月の実大火災実験等の知見に基づき、**準防火地域で1時間準耐火構造の木造3階建て共同住宅**を可能とした（1992（平成4）年改正の範囲拡大）。

↓

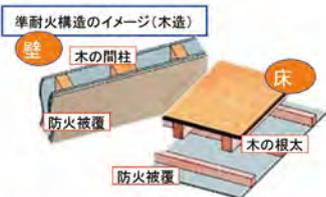
**2004（平成16）年改正（告示）**

- ・伝統的構法で用いられる**木造の外壁・軒裏**を、防火構造の告示仕様として追加。

↓

**2014（平成26）年改正（法律）**

- ・2011（平成23）年度～2013（平成25）年度（3カ年）の実大火災実験等の知見に基づき、一定の基準を満たす**木造3階建て学校等**を可能とした。



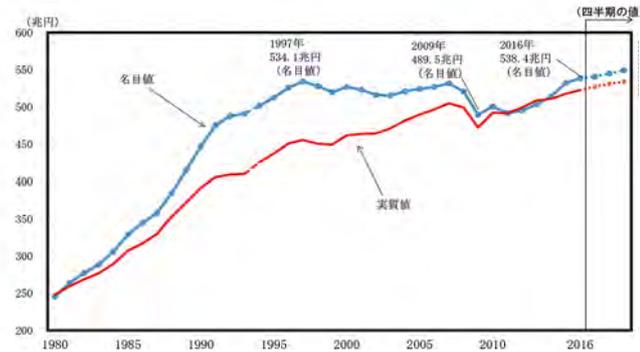
# 働き方改革は日本経済に何をもたらすのか

近年さまざまな場面で耳にすることが多くなった“働き方改革”というワード。“働き方改革”とはどういった取り組みなのか、そして、今後の日本経済にもたらす影響について2回にわたり解説します。第1回は日本における現状と課題、そして政府の取り組みについてです。 ※厚生労働大臣 加藤勝信氏の資料から引用

## 日本における現状と課題

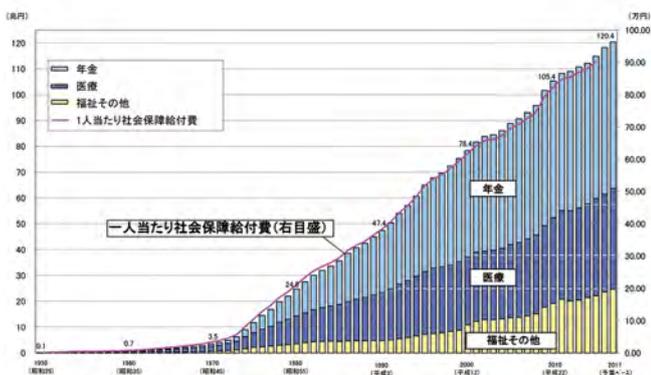
### ■ GDP の推移

2018年1-3月期は548.7兆円（名目値）と日本経済全体は回復軌道。



### ■ 社会保障給付費の推移

2017年度の社会保障給付費（予算ベース）は約120兆円。内訳でみると、福祉その他が20%を占めており、伸びも大きい。



### ■ 人口の推移

2008年のピークを境に年々減少。推計によると、2053年には1億人を切り、2065年には9000万人を割り込む。

人口：1億2652万人（2018年6月）

- ・ 明治初期：3,500万人程度
- ・ 1945年（昭和20年）：7,215万人
- ・ 2008年（平成20年）：1億2,808万人

ピーク

----- 以下推計 -----

- ・ 2053年（平成65年）：9,924万人
- ・ 2065年（平成72年）：8,808万人
- ・ 2100年（平成112年）：5,972万人

一億人切る

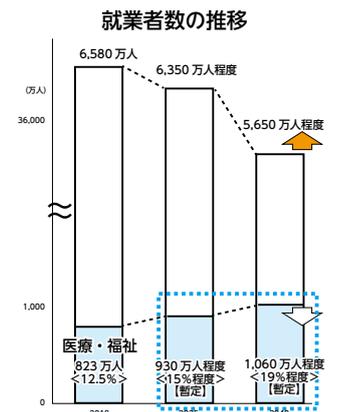
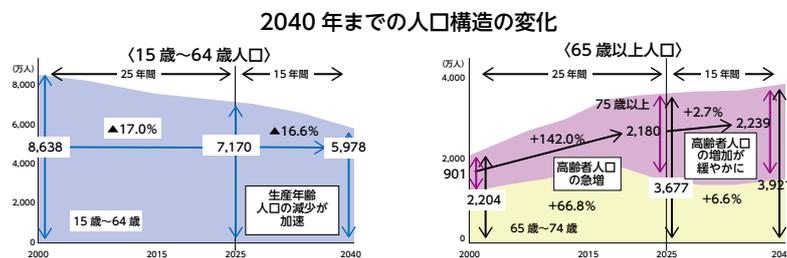
### ■ 一般歳出に占める社会保険費の割合の推移

国の一般歳出の約56%は社会保険関係費。高齢化等に伴い、増加。

年度	歳出総額	一般歳出	社会保険関係費
2018	977,128	588,958 (100%)	329,732 (約56%)
2010	922,992	534,542 (100%)	272,686 (約51%)
2005	821,829	472,829 (100%)	203,808 (約43%)
2000	849,871	480,914 (100%)	167,666 (約35%)

### ■ 人口構造の変化

2025年以降、「高齢者の急増」から「現役世代の急減」に局面が変化。



2025年以降の現役世代の人口の急減という新たな局面における課題への対応が必要

### 《新たな局面に対応した政策課題》

国民的な議論の下、

- これまで進めてきた給付と負担の見直し等による社会保障の持続可能性も図りつつ、
- 右記の新たな局面に対応した政策課題を踏まえて、総合的に改革を推進

#### 1. 現役世代の人口が急減する中での社会の活力維持向上

⇒ 高齢者をはじめとして多様な就労・社会参加を促進し、社会全体の活力を維持していく基盤として、2040年までに3年以上健康寿命を延伸することを目指す。

#### 2. 労働力の制約が強まる中での医療・介護サービスの確保

⇒ テクノロジーの活用等により、2040年時点において必要とされるサービスが適切に確保される水準の医療・介護サービスの生産性の向上を目指す。

■「新しい経済政策パッケージ」(2017年12月閣議決定)

「人づくり改革」部分のポイント<厚労省関係部分抜粋>

1. 幼児教育の無償化

- 幼児教育の無償化を一気に加速。3歳から5歳までのすべての 子供たちの幼稚園、保育所、認定こども園の費用を無償化。
- 幼稚園、保育所、認定こども園以外の無償化措置の対象範囲等については、専門家の声も反映する検討の場を設け、現場及び関係者の声に丁寧に耳を傾けつつ、保育の必要性及び公平性の観点から、来年夏までに結論を出す。
- 0歳～2歳児についても、当面、住民税非課税世帯を対象として無償化。
- 消費税率引上げの時期との関係で増収額に合わせて、2019年4月から一部をスタートし、2020年4月から全面的に実施。

2. 待機児童の解消

- 「子育て安心プラン」を前倒しし、2020年度末までに32万人分の受け皿整備。
- 2018年度(来年度)から早急に実施。
- 保育士の確保や他産業との賃金格差を踏まえた処遇改善に更に取り組み。今年度の人事院勧告に伴う賃金引上げに加え、2019年4月から更に1%(月3000円相当)の賃金引上げ。

3. 高等教育の無償化(略)

4. 私立高等学校の授業料の実質無償化(略)

5. 介護人材の処遇改善

- 介護サービス事業所における勤続年数10年以上の介護福祉士につ

6. これらの施策を実現するための安定財源

- 社会保障の充実と財政健全化のバランスを取りつつ、安定財源として、2019年10月に予定される消費税率10%への引上げによる増収分を①教育負担の軽減・子育て層支援・介護人材の確保等と、②財政再建とに、それぞれ概ね半半ずつ充当。①について新たに生まれる1.7兆円程度を、上記1、2、3及び5に充てる。人づくり革命の政策は、消費税率10%への引上げを前提として、実行。
- 子ども・子育て拠出金を0.3兆円増額。法律で定められた拠出金率の上限を0.25%から0.45%に変更し、0.3兆円の増額分は、2018年度から実施する「子育て安心プラン」の実現に必要な企業主導型保育事業と保育の運営費に充てることとし、そのための子ども・子育て支援法の改正法案を次期通常国会に提出。

7. 財政健全化との関連

- 財政健全化の旗は決して降ろさず、不断の歳入・歳出改革努力を徹底し、プライマリーバランスの黒字化を目指すという目標自体はしっかり堅持。
- この目標の達成に向け、これまでの経済・財政一体改革の取組を精査した上で、来年の「経済財政運営と改革の基本方針」において、プライマリーバランス黒字化の達成時期、その裏付けとなる具体的かつ実効性の高い計画を示す。

8. 来年夏に向けての検討継続事項

(1) リカレント教育

人生100年時代を見据え、その鍵であるリカレント教育を抜本的に拡充するとともに、現役世代のキャリアアップ、中高年の再就職支援など、誰もがいくつになっても、新たな活躍の機会に挑戦できるような環境整備を、雇用保険制度等の活用も含めて、来年夏に向けて検討。

(2) HECS等諸外国の事例を参考とした検討(略)

(3) 全世代型社会保障の更なる検討

今後、2019年10月の消費税増税後の全世代型社会保障の更なる実現に向け、少子化対策として更に必要な施策を検討する一方、その財源についても、「社会全体で負担する」との理念のもと、財政の効率化、税、新たな社会保険方式の活用、企業負担のあるべき姿を含め併せて検討。

■成長と分配の好循環のメカニズムの提示

- ・ アベノミクスの第2ステージでは、経済成長の隘路である少子高齢化に真正面から立ち向かう。広い意味での経済政策として、子育て支援や社会保障の基盤を強化し、それが経済を強くするという新たな経済社会システム創りに挑戦。
- ・ 多様性が認められ、全ての人が包摂される社会では、安心感が醸成され、将来の見通しが確かになり、消費底上げ、投資の拡大。また、多様な個人の能力の発揮による労働参加率向上やイノベーションの創出が図られることを通じて、経済成長が加速。
- ・ 「成長」の果実なくして、「分配」を続けることはできない。アベノミクスの成果を活用し、子育てや社会保障の基盤を強化する。子育て支援・介護支援があって、成長が成り立つ。成長の果実なくして、子育て支援・介護支援は行うことはできない。三本あわせて「究極の成長戦略」。

(アベノミクスの成果)

国民総所得：40兆円近く増加  
 国の税収：15兆円増加  
 企業収益：史上最高の水準  
 就業者数：100万人以上増加  
 失業者：60万人減少  
 失業率：3.2%(18年ぶりの低水準)  
 有効求人倍率：24年ぶりの高水準  
 賃金：3年連続、多くの企業でベースアップ  
 実現見込み  
 物価：反転し、2年連続で上昇  
 GDPデフレーター：9四半期連続プラス  
 GDPギャップ：マイナスであるが縮小傾向

(世界経済の課題)

世界経済：下方リスクの高まり  
 中国：景気が緩やかに減速  
 新興国：原油価格下落が打撃  
 金融市場：年明け以降不安定な動きを示す局面も



(成長の隘路である少子高齢化)

出生率：この30年大幅に低下  
 - 昭和59年の1.81から平成17年の1.26に低下  
 - その後1.3～1.4程度で推移  
 高齢化率：着実に上昇  
 - 昭和59年の9.9%から平成26年の26.0%に上昇  
 総人口：減少局面  
 - 平成20年を境に減少  
 人口減少スピード：加速度的高まり  
 - 2020年代初め毎年60万人程度  
 - 2040年代頃毎年100万人程度

(希望出生率)

一人ひとりの結婚や出産の希望を叶える。結婚したくない人、産みたくない人に国が推奨しようというわけではない。

(介護離職)

離職を機に、高齢者と現役世代が共倒れする現実がある。

## 株式会社コアド

所在地：大阪市西区江戸堀 1-8-17 9 階

事業内容：高速シートシャッターの製造販売業。商品ブランド名「楽昇門」自社製シートシャッターの設置施工及び維持保守・定期点検、修理対応シートシャッター導入関連コンサルティング。

### ● 当社の強み

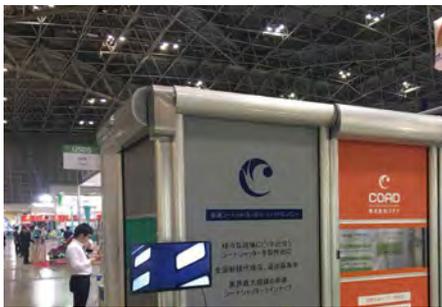
一貫生産体制により最短 1 週間以内の生産対応。高強度 2 重織物シート（厚さ 2mm）を標準化。長寿命、低騒音・低振動のハイポニックギアモーター搭載。高密閉構造（両ガイドレールに密閉ブラシ搭載及び下段防風シート）により埃や虫等の流入対策製品。食品・医薬品分野への販路拡大と環境省エネ事業分野へも挑戦中。

### ● JSDA に期待すること

防犯用軽量シャッター分野へ、今後の事業展開するにあたり、技術や規格を学ばせて頂き、また情報の提供を頂き、高速シートシャッターでのノウハウを活かして安全対策、商品開発に役立てたいと思います。



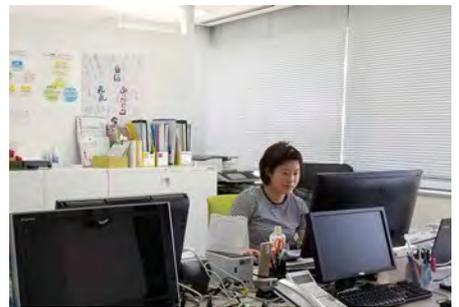
代表取締役社長  
孫 鍾泰 氏



▲楽昇門コンビニエンスシートシャッター



▲楽昇門コンビニエンスシートシャッター



▲事務所の様子

## 豊和工業株式会社

所在地：愛知県清須市須ヶ口 1900 番地 1

事業内容：工作機械・空油圧機器・火器・特装車両・建材等の開発、製造、販売  
（建材：防音サッシ、一般ビルサッシ、スチールドア、防水板・防水扉、電磁シールドドア）

### ● 当社の強み

昭和 33 年に建材部を設立以来、防音サッシ・ドアを得意分野としています。平成 16 年に簡単な操作と独自の連装機構を採用した跳ね上げ式防水板の販売を開始し、翌年、一般スチールドア同様の操作性で独自の 1 軸スライドヒンジ（特許取得）を採用した防水扉をラインナップしました。更に止水製品の拡充に注力していきます。



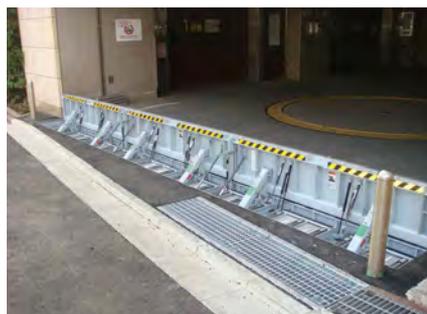
代表取締役社長  
塚本 高広氏



▲防水扉

### ● JSDA に期待すること

止水製品の JIS 規格化に向けた取組みをしていただき、品質が高く、安全な止水製品が広く普及していく活動をしていただけることを願っております。



▲跳ね上げ式



▲本館

## オリент産業株式会社

所在地：福岡県福岡市中央区舞鶴1丁目4番19号

事業内容：ステンレス製建具の企画・設計・製作・施工 自動ドア装置の販売・取付・保守サービス電気錠の販売・施工  
 建材商品の販売・施工 金属工事



代表取締役社長  
 今浪 健治 氏

### ● 当社の強み

設計から製作、施工、メンテナンスまで、製販一体で品質管理に注力し「国際品質規格ISO9001」を認証取得。ステンレス建具において、機能性、耐久性、安全性、快適性を追求しながら、九州はもとより、ナブコ自動ドア九州地区総代理店として、東日本地区、西日本地区のグループ会社の協力を得て、全国販売を展開しております。

### ● JSDA に期待すること

業界（特にドア関係）の現状、今後の動向（海外含む）、将来性、課題等について情報提供を期待致します。

### ● 地元のオススメスポット

福岡市中央区今泉にある福岡最初の老舗中華料理【福新楼】です。「フカヒレスープ」「鮑・ホタテ・海老」等の海産物メインの中華料理はどれも逸品です。ぜひ一度ご賞味下さい。



▲本社社屋



▲福新楼



▲施工事例1



▲施工事例2



▲ステンレス製造工場であるOSステンレス

## 株式会社 豊和

所在地：兵庫県尼崎市猪名寺2-21-32 豊和ビル

事業内容：AAP アンカー・自然排煙装置マドコン・引戸用煙感知連動遮煙自動閉鎖装置ドアコン・自然換気装置マドコン  
 エコ・エコバランスの製造販売



代表取締役社長  
 安藤 和明氏

### ● 当社の強み

昭和28年創業以来、「人を安全に人にやさしく」を理念として、火災発生時に煙を外に逃がす自然排煙装置「マドコン」を、閉鎖障害が極めて起きにくい防火扉として引戸式遮煙自動閉鎖装置「ドアコン」を、管子トンネルの天井板落下事故が二度と起こらないように金属系AAPアンカーを開発し、製造販売しています。

### ● JSDA に期待すること

建築基準法における防火・遮煙・CAS等の研修に参加し、会社のレベルアップができればと考えております。

### ● 地元のオススメスポット

アットホームな雰囲気のリープさん。店主さんの優しさを感じさせるフッカフカのパンや具材の沢山詰まったパンが並びます。中でも、アップルパイはリングが沢山入ったすごく満足感のある一品です。



▲本社工場



▲本社ビル



▲リープ



▲AAP アンカー



▲淡路工場

## 第4回 委員会紹介コーナー

JSDAの委員会は何をしているのか、皆さんご存知ですか？業界の明日のために頑張っているのです！各委員会の活動を委員の皆さんのコメントとともに紹介します。

### 高速シートシャッター専門委員会

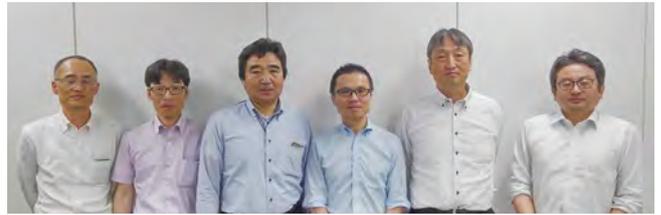
#### 吉竹直行委員長より（ワールド工業）

- ◆活動意義について… 高速シートシャッターの使用目的は、防虫・防塵・防寒・防風・空調管理など多岐に渡ります。環境改善を含め、その有用性を本委員会からアピールする活動を重点的に行っています。又、高速での開閉頻度が高いため、事故防止・安全性向上に引き続き取り組んで参ります。
- ◆今年度の目標… 高速シートシャッターの安全に関するガイドラインで、技術基準改定後に整合性確認し管理調整委員会・基準委員会に審議依頼申請を進めて行きます。特定調達品目の申請して、取得までを目指します。
- ◆委員長のコメント… 高速シートシャッター委員各社で機構や構造が多種有ります。事故防止・安全性向上に視点を置き、共有機能と操作などを委員会として共有点をまとめて行きたいと考えます。高速シートシャッターはまだ認知されていない業種もありますので、機能や性能を標準化して有用性をアピール出来るようにして行きたいと考えます。

各社委員の皆様より（五十音順）

#### 植竹 徹（文化シャッター）

- ◆高速シートシャッターは、鋼製シャッターが防犯用途や管理用途で使われるのとは異なり、工場や倉庫などの省エネルギーに大きく寄与することのできる製品です。委員会活動を通して、この製品をいろいろな形で世の中にアピールしていくことで、製品がさらに多く使われ、省エネに貢献できればよいと考えています。



#### 大川 剛（三和シャッター工業）

- ◆開閉速度が速いシートシャッターは、開口部からの空気の流出を抑える事ができるため、環境負荷低減に効果がある商品です。その為、当委員会では、グリーン購入法の特定調達品目にそのシートシャッターを追加すべく活動しており、更なる業界の発展に寄与できればと思っております。

#### 齋藤 弘幸（ユニフロー）

- ◆他のシャッター商品に比べたら「新参者」の部類に入る高速シートシャッターですが、それでも世に登場して約30年、一世代が経過しました。普及が一巡して新たな可能性の模索が必要となっている一方で、技術標準の整備など追いついていない部分も少なくありません。市場の健全な発展のため協力していければと考えています。

#### 田畑 幸雄（LIXIL 鈴木シャッター）

- ◆高速シートシャッター委員会に参加させて頂くようになってから早くも3年が立ちました。社内ではこの商品に関わる部署にいませんでしたので当初はご迷惑ばかりかけていましたが、逆に素人目線からの意見も出しつつこの製品の発展に寄与していけたらと思っています。

#### 真野 敏行（小松電機産業）

- ◆本委員会に参加させて頂き約2年になります。普段は営業職なので、現場サイドの意見で協会・業界の発展に少しでも寄与出来るように取り組んでいます。宜しくお願いします。

### 窓シャッター専門委員会

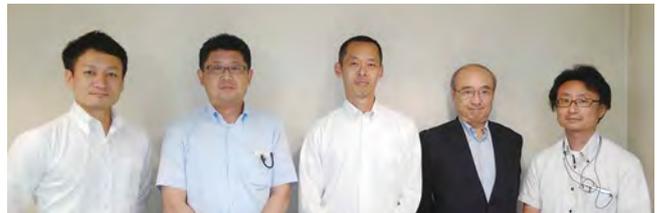
#### 野口 弘幸委員長より（文化シャッター）

- ◆活動意義について… 窓シャッター専門委員会では窓シャッター製品に関する標準化の推進と防犯・防災対策を中心に活動を行っています。昨年度は技術基準の策定をJIS化も視野に入れながら行いました。
- ◆今年度の目標… 昨今の大型台風や竜巻によるガラス割れ被害対策として窓シャッターが着目されています。そこで窓シャッター専門委員会では「窓シャッターの飛来物による耐衝撃性能の研究」を活動テーマとして活動して、その研究成果を技術基準として盛り込めるよう努めていきます。
- ◆委員長のコメント… 今年度より委員長の任を拝命しました。委員の皆さんと他委員会のご協力、またサッシ協会など関連団体と連携いただきながら窓シャッター専門委員会の活動を通じて窓シャッターの普及と課題解決に努めていきたいと思っております。

各社委員の皆様より  
（五十音順）

#### 石川 博之（アイシン精機）

- ◆これまで住宅窓シャッターの防犯認定対応、技術標準および施工基準の策定に携わらせていただき、大変勉強になりました。今年度の活動テーマで



ある「窓シャッターの飛来物による耐衝撃性能の研究」に対し、自動車の評価技術や知見の角度からアプローチし、窓シャッターの更なる普及に努めていきたいと考えています。

#### 畠山 雄一（三和シャッター工業）

- ◆20年前は横引き雨戸が一般的でしたが、現在は操作性・利便性という点から窓シャッター比率が9割を超える時代となりました。窓シャッターをより多くの方に、安全に、安心して、快適にご使用いただけるよう、協会委員として技術基準の見直しや性能の研究等に取り組んでいきたいと思っております。

#### 花井 祥延（文化シャッター）

- ◆私が参加した2006年当時は防犯建物部品の立上げ当初で、試験細則の改訂や新たな試験基準の策定に携わりました。防犯試験は、受験する側も審査する側も大変な苦労があり、その分合格の喜びもひとしおで、審査する側も、とてもやりがいを感じる活動テーマの一つです。これからも、窓シャッターの普及に貢献できれば幸いです。

#### 平林 英雄（三和シャッター工業）

- ◆本専門委員会には、出たり入ったりはありましたが、もう十数年もお世話になっています。昨年改訂した「窓シャッター技術基準」も、平成17年からのお付き合い。今回の改訂が最後のご奉公と思ひ、本人は頑張ったつもりであります。そろそろお役御免の沙汰が下るかと思ひますが、それまではよろしくお願い致します。

今すぐ行きたい！  
旅行の思い出を紹介！



## 聖ポール天主堂跡（マカオ）

聖ポール天主堂跡は中国の特別行政区マカオにあり、マカオ歴史地区の遺跡のひとつとして世界遺産に登録されました。「大三巴牌坊」として現地では広く知られ、マカオで最も有名な歴史的建築としてシンボリックな存在でもあります。

イエス・キリストの使徒聖パウロに捧げられた聖ポール天主堂は、1602年にポルトガルのイエズス会によって建てられました。当時のアジアでは最大のカトリック教会でしたが、1835年の火事により建物のほとんどが焼けてしまいます。残されたのは、石造りのファサード（建物の正

面部分）と、68段の階段だけでした。火事からも焼け残ったファサードは、イタリア人イエズス会士カルロス・スピノラの元、日本人キリスト教徒と現地の職人によって彫刻がなされました。

当時日本はキリスト教を厳しく弾圧していたため、多くの日本人キリスト教徒は追放されたり迫害を逃れたりしてマカオへ渡って来ていたのです。

ファサードの背面から上段まで上ることができ、階段から窓に向かってコインを投げ入れて成功すると、幸運が訪れると言われています。

おいそう！  
今日のお昼はここにしよう！

## 名物 万代そば

住所：新潟県新潟市中央区万代 1-6-1 バスセンタービル 1F  
電話：025-246-6432



今回ご紹介するのは、知る人ぞ知る、新潟名物の“バスセンターのカレー”です。これは新潟万代シティバスセンターの1階にある立ち食い蕎麦屋さんが提供するもので、あくまでバスを待つ人が食べるカレーでしたが、出張や観光で来る人などの間で人気となり、今では開店とともに行列ができるほどに。

また、最近、テレビで紹介されたことにより全国区になり、ネットなどでとても話題になっています。

味は昔ながらのカレーで、すこし辛口がとてもクセになります！

新潟のバスセンターにお越しの際はぜひ食べてみてください。

## TOPICS

### 「安全の日」を制定しました

当協会はこのたび、9月1日を「安全の日」として制定しました。これは安全装置の未設置や、使用者の不注意や誤操作に伴うシャッターの“重大事故ゼロ”を目指すものです。具体的には、シャッターの正しい使用方法や安全装置の設置促進、より安全性の高い安全装置の開発・普及を推し進めていきます。

協会ではポスター&チラシを作成し会員各社の啓蒙活動の促進ツールとして活用いただき、安全装置未設置物件への設置等を促進して頂けるよう会員支援活動の一環としてもつなげてまいります。



▲安全の日ポスター

### 第1回

### 浸水防止用設備委員会の報告会を開催します

9月5日（水）に第1回浸水防止用設備委員会の報告会を開催します。これはJSDA浸水防止用設備委員会によるJIS化に向けての取り組み状況についての報告、そして今後の浸水防止用設備委員会を運営するにあたって会員企業各位からご意見・ご要望を伺っていくものです。報告会の後には懇親会も予定しておりますので、ぜひご参加ください。

#### 【第1回 浸水防止用設備委員会の報告会】

日時：2018年9月5日（水）13時半～16時

（懇親会は16時～18時）

場所：東京都新宿区新宿 3-5-4 レインボービレッジ 8階

クルーズ・クルーズ SHINJUKU (TEL:03-5485-3900)

※会費等は無料

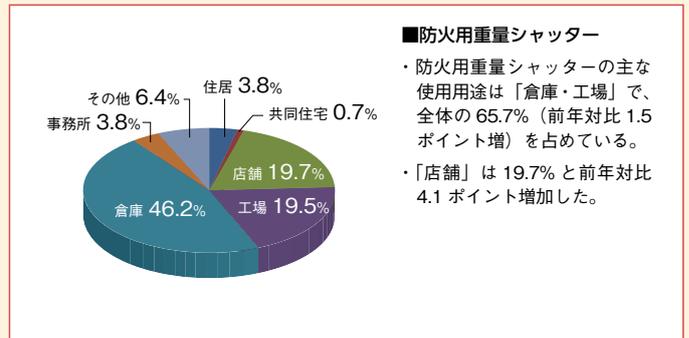
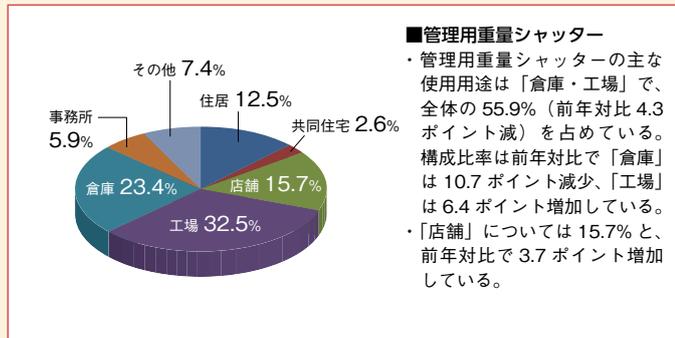
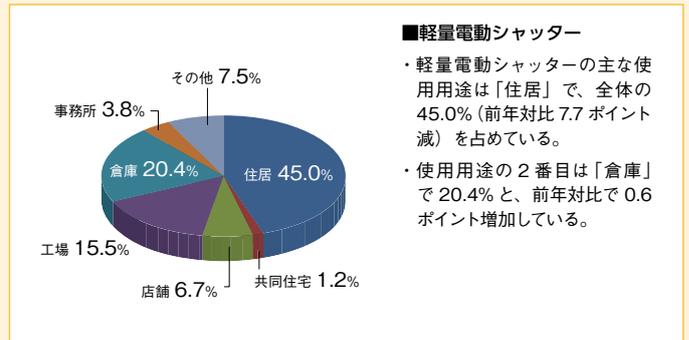
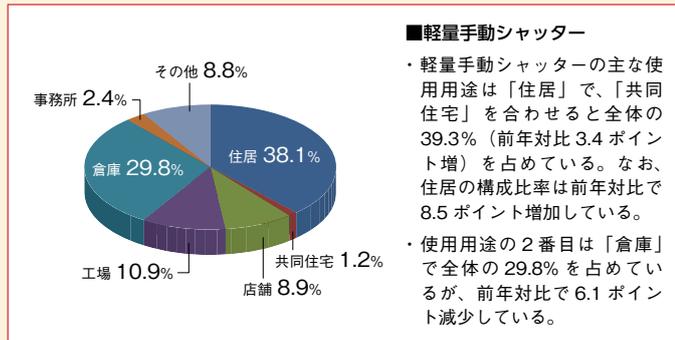
※参加希望の方はJSDA事務局 (TEL:03-3288-1281)

までお問い合わせください。

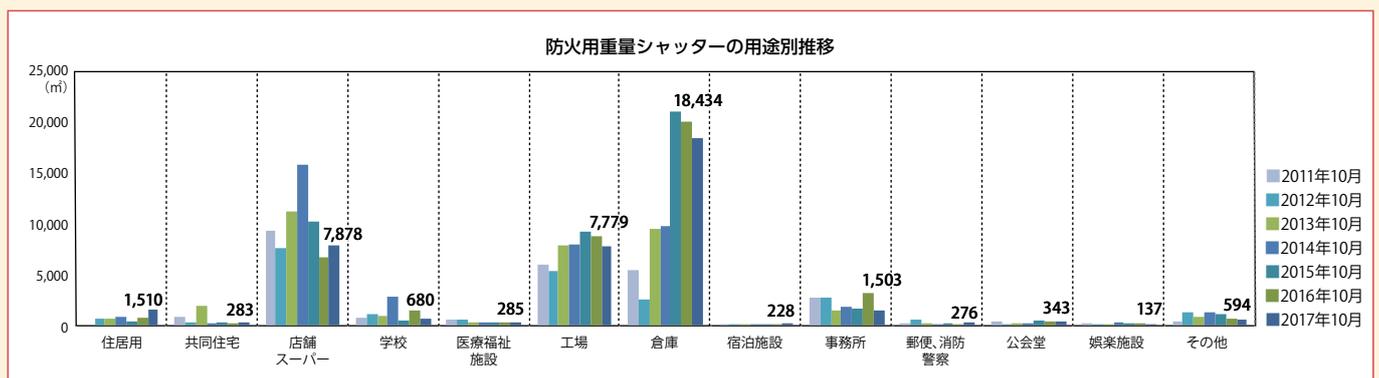
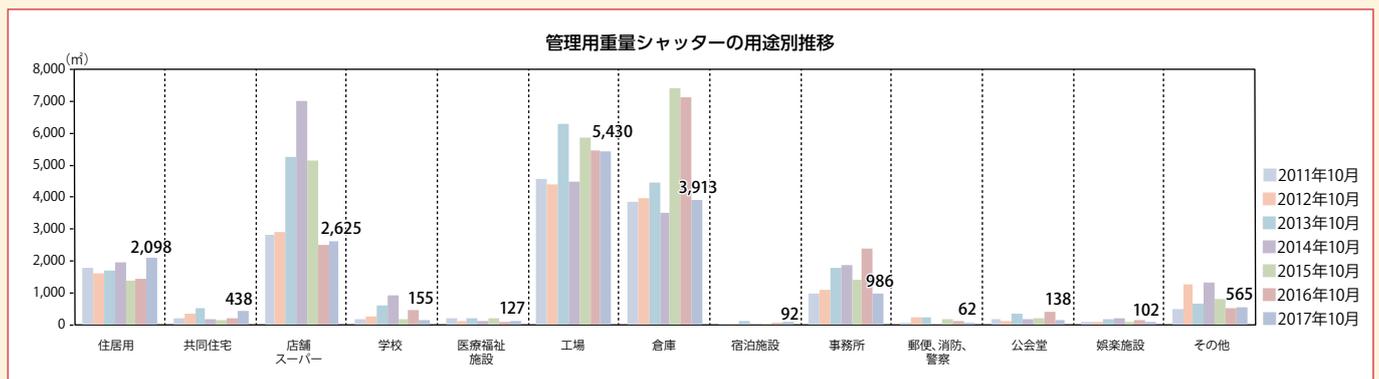
## シャッターの使用状況調査 2017

2010年より毎年業務委員会で調査しているシャッターの使用状況調査について、2017年分の一部を抜粋して紹介します。この調査は、年間を通じて平均的なデータを収集できる毎年10月の1ヶ月間の売上物件データをもとに、各種シャッターの建物用途別都道府県別の使用状況と年推移等をデータ化しています。なお、調査概要については17ページ下を参照ください。

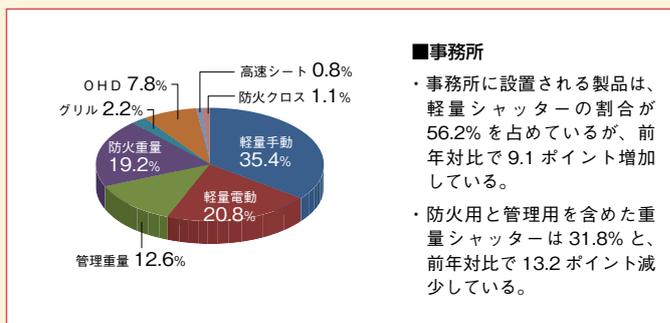
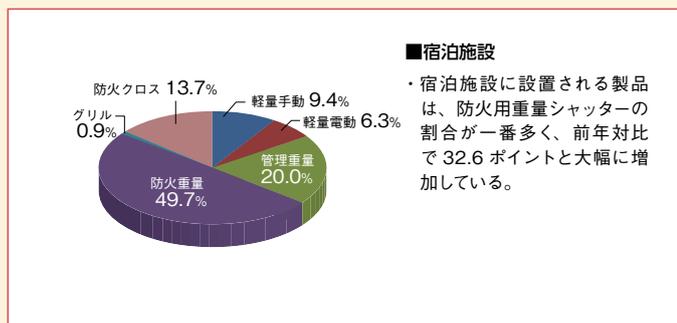
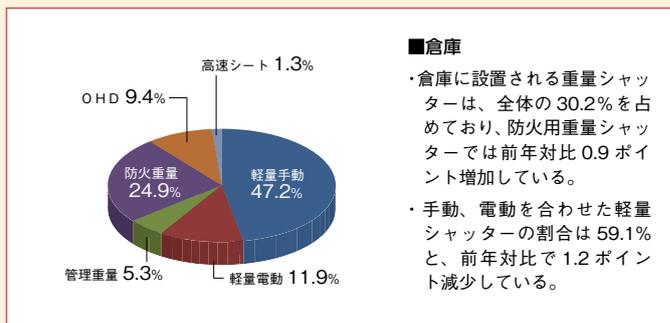
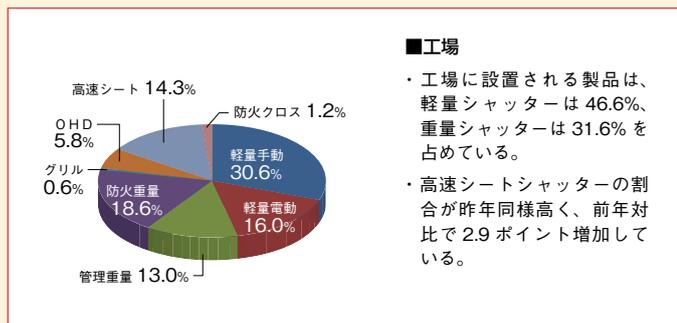
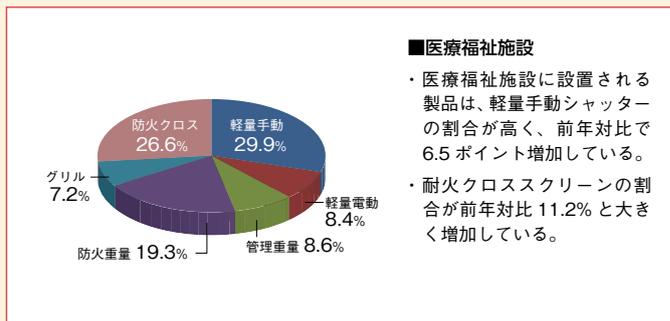
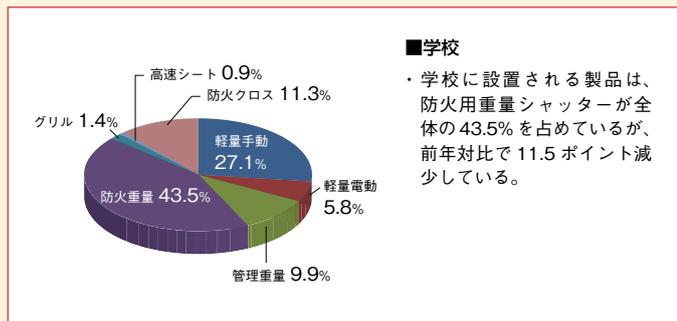
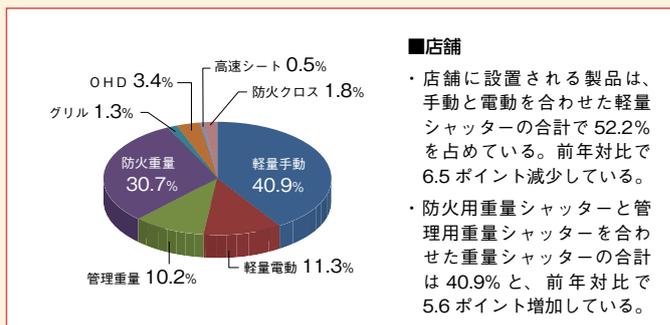
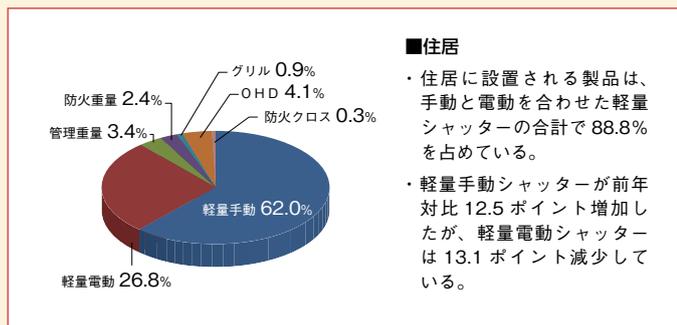
### ◆製品別用途別使用状況



### ◆管理用&防火用重量シャッターの用途別推移



## ◆主な用途別使用製品状況 (2017.10)



### 調査概要

#### 1. シャッターの種類：

軽量シャッター、軽量電動シャッター、管理用重量シャッター、防火用重量シャッター（特定防火設備）、グリルシャッター（軽量、重量）、オーバーヘッドドア、耐火クロスシャッター、高速シートシャッター

#### 2. 集計単位：売上数量（㎡）

#### 3. 建物用途区分：

- ①住居用、②共同住宅、③店舗・スーパー・百貨店、④学校、⑤医療・福祉施設、⑥工場、⑦倉庫、⑧宿泊施設（下宿、寄宿舎含む）、⑨事務所、⑩郵便局、消防署、警察署、駅舎、空港、⑪公会堂・集会所・博物館・美術館・研究所・寺院・教会、⑫娯楽施設（体育館、浴場、劇場、球場、映画館含む）、⑬その他

#### 4. 調査地区：47都道府県

#### 5. 調査期間：2017年10月（1ヶ月間）の売上物件

#### 6. 調査協力企業：日本シャッター・ドア協会会員（12社）

# 新会員について

今年度は、第二種会員として新たに6社、準会員として1社の入会があり、5月末時点での会員数は176社となりました。

## 統計データ

### ■過去1年間出荷推移 < シャッター >

(㎡、前年比・電動化率%)

	2017.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2018.1月	2月	3月
重量シャッター	81,712	75,882	85,052	83,599	92,701	107,671	106,120	97,655	94,992	85,313	83,241	93,401
前年比	16.9	14.3	4.3	-0.7	7.2	7.1	-1.1	1.6	5.0	-3.8	-15.1	-9.8
軽量シャッター	172,221	180,290	190,488	173,386	167,269	178,634	199,156	226,186	181,108	142,724	147,980	177,859
前年比	-5.2	-0.7	-0.3	-2.6	-1.5	-6.6	2.7	15.4	3.9	7.1	-2.5	-2.2
電動化率	27.5	26.9	28.4	29.0	29.0	29.7	26.2	24.9	29.3	28.4	29.9	28.7
グリルシャッター	2,581	2,352	2,590	2,822	2,856	2,820	2,639	3,348	3,082	2,927	2,572	3,114
前年比	-14.5	-16.9	-20.7	-26.3	-20.6	-17.7	-11.1	-0.1	17.1	-0.9	-20.9	-16.8
オーバーヘッドドア	17,507	18,228	21,462	21,135	22,472	26,016	28,493	27,619	26,679	18,557	21,026	20,605
前年比	-2.0	-1.0	-3.8	-6.7	-7.8	1.0	32.0	4.7	-2.1	-10.7	-15.0	-11.9
合計	274,021	276,752	299,592	280,942	285,298	315,141	336,408	354,808	305,861	249,521	254,819	294,979
前年比	0.6	2.8	0.5	-2.7	0.4	-1.8	3.3	10.2	3.8	1.6	-8.3	-5.6

### < ドア >

(枚、前年比%)

	2017.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2018.1月	2月	3月
鋼製重量ドア	32,662	33,430	37,163	36,011	35,468	39,398	37,283	40,558	44,417	34,982	42,897	57,171
前年比	14.9	17.4	20.7	6.6	1.5	-0.3	-5.1	-0.4	3.9	-4.5	2.9	2.8
鋼製軽量ドア	21,797	24,252	25,955	25,777	30,250	36,036	35,994	34,818	34,443	33,856	40,676	35,766
前年比	-9.9	-2.4	-18.3	0.6	10.5	18.0	18.8	8.1	1.1	-1.5	15.4	9.2

### ■年度別出荷推移 < シャッター >

(㎡、前年比・電動化率%)

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
重量シャッター	1,534,537	1,436,147	1,365,508	839,568	839,415	875,978	993,232	1,145,215	1,090,735	1,186,252	1,073,117	1,087,349
前年比	2.7	-6.4	-4.9	-38.5	-0.0	4.4	13.4	15.3	-4.8	8.8	-9.5	1.3
軽量シャッター	2,871,880	2,488,705	2,175,375	1,972,917	1,915,847	2,039,568	2,271,832	2,320,018	2,120,235	2,176,807	2,124,636	2,137,301
前年比	-2.2	-13.3	-12.6	-9.3	-2.9	6.5	11.4	2.1	-8.6	2.7	-2.4	0.6
電動化率	26.2	26.3	25.4	24.5	26.2	24.5	24.0	23.5	26.5	27.0	27.7	28.2
グリルシャッター	90,630	79,124	61,751	54,719	52,483	55,410	53,207	56,361	48,210	42,245	38,867	33,703
前年比	-9.6	-12.7	-22.0	-11.4	-4.1	5.6	-4.0	5.9	-14.5	-12.4	-8.0	-13.3
オーバーヘッドドア	289,307	240,523	217,932	174,936	178,341	204,003	226,406	269,558	242,275	272,597	275,529	269,799
前年比	-2.8	-16.9	-9.4	-19.7	1.9	14.4	11.0	-12.8	-10.1	12.5	1.1	-2.1
合計	4,786,354	4,244,499	3,820,566	3,042,140	2,986,086	3,174,959	3,544,677	3,791,152	3,501,455	3,677,901	3,512,149	3,528,152
前年比	-0.9	-11.3	-10.0	-20.4	-1.8	6.3	11.6	7.0	-7.6	5.0	-4.5	0.5

### < ドア >

(枚、前年比%)

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
鋼製重量ドア	639,514	635,875	493,689	436,415	448,242	449,988	470,919	450,218	488,835	466,030	452,650	471,440
前年比	2.6	-0.6	-22.4	-11.6	2.7	0.4	4.7	-4.4	8.6	-4.7	-2.9	4.2
鋼製軽量ドア	971,002	1,003,218	888,996	680,918	618,079	574,528	415,782	415,591	432,918	388,787	363,251	379,620
前年比	1.6	3.3	-11.4	-23.4	-9.2	-7.0	14.5	-0.0	4.2	-10.2	-6.6	4.5

注)・「鋼製重量ドア」は鋼製建具を、「鋼製軽量ドア」は鋼製軽量建具を指します。  
・鋼製重量ドアは、ガスチャンバー、点検口を含みます。

# 新日鐵住金の高耐食性めっき鋼板

# SuperDyma®

スーパーダイマ

JIS申請中!

環境に優しいクロメートフリー処理!!

「総合力世界No.1の鉄鋼メーカー」へ



**新日鐵住金**

薄板営業部

スーパーダイマの詳細のご案内は

スーパーダイマホームページ URL/

<http://www.nssmc.com/product/superdyma/>

お問い合わせ

E-mail

[superdym@jp.nssmc.com](mailto:superdym@jp.nssmc.com)

高耐食溶融めっき鋼板

**ZAM®**とは

亜鉛-6%アルミニウム-3%マグネシウムのめっき層を持つ新しい溶融めっき鋼板です。

**製品構成**

化成処理

亜鉛-6%アルミニウム-3%マグネシウムのめっき層

鋼板

サビに強いめっき鋼板

新日鐵住金グループ

**優れた耐食性**

■屋外暴露試験(一般環境)



■平坦部の耐食メカニズム

溶融亜鉛めっき



酸化亜鉛主体の白錆で密着性なく流れやすい

赤錆発生

ZAM®



Mgを含むZn-Al系保護皮膜がしっかりガード

※「ZAM」は、日新製鋼株式会社の登録商標です。

「ZAM」は、日新製鋼株式会社が開発した溶融亜鉛Zn-アルミニウムAl-マグネシウムMg合金めっき鋼板の商品名です。

**日新製鋼株式会社**

●本社 〒100-8366 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル TEL. 03-3216-5166

●大阪支社 ●名古屋支社 ●中四国支社 ●北海道支店 ●東北支店 ●新潟支店 ●北陸支店 ●四国支店 ●九州支店



## 古代ローマとルネサンス文化のイタリア

妻とイタリア行こうよ!と盛り上がってから2年が経ち、教会、美術館、彫刻、建築、音楽に的を絞っていたらローマのコロッセオ最上階が40年ぶりに一般公開になったニュースを耳にし、映画「グラディエーター」でイメージした上で、古代ローマ時代の代表的な円形闘技場の現地見学ツアーに参加しました。最上階は5階で約40メートルあり、ビル10～13階の高さで貧しい平民が座る席で人間・動物の戦いの演目を見るには遠すぎる位置ですが、楕円形のコロッセオ全体とパノラマ度的な眺めは圧巻です。最初の説明で驚いたのは、ローマ人は、アーチ型の建築構造を開発、火山灰を混ぜると石とレンガがくっつくのを発見、コンクリートを開発、そして石の積み上げに滑車クレーンを開発したと聞いたことでした。「凄い一言」です。約2000年前の地下施設には猛獣たちの檻、剣闘士たちの待機所があり、人力リフト巻き上げ機で剣闘士・猛獣を競技場へ吊り上げて登場させていた演出には再び「凄い一言」。また地下の石組み柱・梁・壁と水路が残っており、アリーナに水を張り海に見たてたのは、古代ローマの水を非常にうまく扱った「凄い一言」です。最上階は、天幕のポール穴が残っていて太陽の動きで開閉し、また階段が狭く急勾配になっていて、説明によると身分の高い階級の退場をスムーズに行なわせる工夫であるらしい。古代ローマの建築技術は、映画「グラディエーター」そのもので「凄い一言」連発です。一押しツアーですが、イタリア訛りの英語は難しいです。その他にも教会、美術館、ヴィヴァルディ演奏会、迷子になりながら散策、そしてバルに酒場とイタリアの文化体験でした。

(会員企業 佐伯氏)

## JSDA 会報 2018年・初夏号

発行日:2018年7月 通巻第54号

発行者:一般社団法人日本シャッター・ドア協会

〒102-0073 東京都千代田区九段北3丁目2-5 九段北325ビル8階

tel.03-3288-1281 (代) /fax.03-3288-1282

URL:<http://www.jsd-a.or.jp>